

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392200081		
法人名	株式会社サンケイ		
事業所名	グループホームテアフル笑明かり・咲明かり(笑)		
所在地	愛知県一宮市浅井町尾関字西五輪26番地		
自己評価作成日	令和3年12月25日	評価結果市町村受理日	令和4年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&Jigy_osvoCd=2392200081-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	令和4年1月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「生きているって素敵と思える家に」という理念のもと、一人一人が今できる事を継続していけるように、日常生活を利用者と職員が共に過ごしている。コロナ禍の為、外出や地域交流、施設の行事等が中止になっている。そんな中でも近所への散歩、施設内でも季節感や昔ながらの行事を大切に過ごしている。ご家族とは面会出来ない分、電話やオンライン面会、お便り、ブログやSNS等を通じ、本人の様子をお届けできるようにしている。職員は、一人一人の想いに寄り添い、その人らしく、その人のペースで生活できるようにしている。また、毎日楽しむ事を大切に笑顔が絶えず、居心地よく、張りのある生活が送れるようにも努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームでは、各ユニット毎に支援内容の検討が行われており、利用者がその人らしく生活することができるように、一人ひとり合わせた支援が行われている。同じ建物内に小規模多機能事業所を併設していることで、利用者の中には小規模多機能を利用しながら在宅での生活を継続し、利用者や家族の様々な状況にも合わせてグループホームへ生活場所を移行しており、利用者の円滑な移行にもつながっている。感染症問題が続いていることで、地域の方との交流が困難になっているが、例年は、ホームの共用空間を活用したサロンが行われており、毎回、多くの方の参加が得られており、地域の方との定期的な交流につながっている。また、職員研修の取り組みについては法人全体で行われており、当ホームでも定期的に研修の機会をつくり、職員の資質向上につながる取り組みを継続している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	ミーティングや議事録で理念を確認・共有し、日々のケアに繋がるように努めている。「生きてるって素敵」と思える家に。を頭に入れながら、その人らしく過ごせるよう行動している。	運営法人の基本理念である「生きているってすてき」を日常の支援の基本に考えながら、職員間での共有が行われている。また、職員一人ひとりが目標を考える取り組みを行い、理念の実践にもつなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	散歩時、地域の方に積極的に挨拶を行い、お花や作物を頂く等あり、交流を深めている。児童館や地域の行事や交流もコロナ禍で出来る範囲で行い、月1回の資源回収に協力している。	感染症問題が続いていることで、地域の方との交流が困難になっているが、例年は、ホームで行事を開催したり、定期的なサロンも開催しており、多くの方の参加が得られている。また、感染症問題が起きる前までは、近隣の喫茶店との交流も行われている。	ホームでは、定期的なサロンの開催等、地域の方との前向きな交流が行われていることもあるため、今後の状況をみながら、地域の方との交流の取り組みが再開されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	職員は仕事を通して学んだ事を日常生活で携わる地域の人々に向けて活かしている。また、ブログなどを通し日々のケアの様子を伝える事で、理解や支援の方法を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	書面や電話を通して意見交換を行い、サービス向上に活かしている。	会議については、書面による実施が続いており、関係者に書面を配布し、ホームの現状を報告する取り組みが行われている。例年は、複数の地域の方が参加しており、定期的な情報交換が行われている。	書面による実施が長期化していることもあるため、今後の状況をみながら、可能な範囲で会議の開催が再開されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	日頃の連絡は主に管理者が行い、協力関係を築いている。	市担当部署や地域包括支援センターとの情報交換等については、併設事業所を通じても行われており、ホームへの運営への反映につなげている。また、運営法人を通じた市担当部署との連携も行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	内部研修で学ぶと共に、身体拘束等適正化検討委員会にて目標を定め評価している。ヒヤリハットの検討や、職員間で声を掛け合い、身体拘束防止に努めている。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、利用者の意向に合わせてホームの外に出る等の対応が行われている。また、身体拘束に関する定期的な委員会の実施や職員研修が行われておら、職員の振り返りにつなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	内部研修で学ぶと共に、身体拘束等適正化検討委員会にて目標を定め評価している。ヒヤリハットの検討や、職員間で声を掛け合い、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	1名利用している。日常生活自立支援事業や成年後見制度・法的な知識について理解している人は少ない。関心をもち理解に努めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、管理者が疑問・不安を聴き、安心できるようにしている。解約・改定時、管理者・リーダーで連携し、本人・家族の想いに合わせながら、理解・納得できるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	常に利用者とコミュニケーションを取りながら意見を聴き、家族は、電話・面会・アンケート等で、意見・要望を伺い、運営の反映に努めている。	現状、家族との交流が困難になっているが、随時の情報交換の機会をつくり、管理者やリーダーが要望等の把握につなげている。また、毎月の便りの作成の他にも、随時のブログの更新が行われており、利用者の暮らしぶりを報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティング・委員会・行事等は、職員の意見を中心考えられ、ケアに反映させている。意見が言えない方にも、書面で聴く等している。やりたいと思った事は行えるようにしている。	ホームでは、リーダーを中心に毎月のユニット会議や情報交換が行われており、リーダーが把握した職員からの意見等を管理者に報告し、業務改善等につなげている。また、管理者による職員の個別面談を実施しており、一人ひとりの把握につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者とリーダーは職員と年2回面談し、状態把握し、一緒に目標を決めている。定期的に戻りをして、各自が向上心を持って働けるように環境を整えている。検診・ワクチン接種・検査も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	内部研修の取り組みや、一人一人に合った研修を勧められたり、外部研修も受ける機会がある。実践できるように努め、レベルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	管理者がネットワークを運営し、同業者と意見交換や研修等に参加できる体制がある。事業所内でも、ミーティングや勉強会等で交流を深め、質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	しっかりと寄り添い、不安・要望・想いをよく聴いて、不安のない生活が送れるように信頼関係の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	今まで抱えてきたことをしっかりと受け止め、不安に想っている事・本人に対しての要望を理解し、より良い関係で支援できるように十分に話し合い、信頼できる関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人・家族の想い・希望を伺い、管理者と職員で話し合っている。本人が「その時」必要な支援を見極めながら、他のサービスでも、より良い生活が提供出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日常生活を共に過ごし、昔の話や人生の先輩の意見を伺ったり、不安や喜びを共有し、支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	電話・お便りなどで近況報告をしている。意見・要望を聴きながら、本人が望む事を、共に協力して支援していく関係構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	電話で本人と話したり、手紙等を見て懐かしんだり、返信をして関係が途切れないようにしている。馴染みの方の把握を心がけ、いつでも連絡がしやすいように努めている。	現状、外部の方との交流が困難になっているが、利用者の中には、入居前からの友人、知人との交流を継続している方もあり、関係継続の機会がつけられている。また、家族との外出についても感染症対策等をお願いしながら、身内の方の葬儀に出かけた方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	能力・性格・関係性を把握し席を決めたり、声掛けをしている。利用者同士が気持ちよく毎日を過ごせるように、輪作りを考え、孤立しないように支え合えるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスが終了しても、今までの関係性を大切に、いつでも来設出来て、話しやすい雰囲気づくりを心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人一人の想いの把握に努め、職員間で共有しながら、希望に沿った暮らしが送れるように努めている。表情や体調からも汲み取れるように、変化を見落とさないように心がけている。	職員間で利用者を担当する取り組みも行いながら、利用者や家族に関する意向等の把握が行われており、職員間での共有が行われている。また、毎月のカンファレンスが行われており、意向等を検討し、日常の支援につなげる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	今までの生活スタイルを、本人・家族の話や、アセスメントシートから把握に努めている。本人らしく、心から安心して生活が出来るように、家族と相談しながら生活環境を整えている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	出来る・解る力を活かすよう何でも共に行っている。職員間で情報共有し、その時々での過ごし方が出来るよう心掛け、好奇心や力が衰えないように支援している。常に変化を見逃さぬよう、状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人の状況を把握し、家族・医師・看護師等の意見を取り入れながら、職員間で毎月一人一人のケアについて話し合い、今必要な介護計画を作成している。	介護計画は6か月での見直しが行われており、利用者の状態変化等に合わせた対応が行われている。記録については電子記録に移行しているが、介護計画の番号に合わせた記録は継続しており、毎月のモニタリングにつなげる取り組みが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録に、日々の様子やケアの実践内容や工夫・健康状態や家族のやり取り等記入し、申し送りで職員間情報共有しながら、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	団体生活を送る中でも、一人一人のペースを大切にして、日々変化する本人・家族の思いに応えられるように、管理者・職員で話し合いをしながら、柔軟な対応が出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ禍で、店舗などの外出は出来ていないが、散歩に行き地域の方と交流を深めている。また、往診医やリハビリ・そよ風などを利用し、豊かな生活が出来るように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月1回往診があり、健康管理を行っている。体調変化時等、医師・看護師・家族・本人と相談して受診等決めて、必要時付き添っている。1名、かかりつけ医にご家族と共に受診している。	協力医による医療面での支援が行われているが、利用者の中には、今までのかかりつけ医を継続しており、家族の支援で受診等の対応が行われている。また、当ホームの看護師の他にも、併設事業所にも看護師が勤務しており、医療面での支援につなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	月3回の訪問があり、バイタル測定しながら状態を見ている。体調変化・気づき等、報告・相談し指示を仰いでいる。緊急時等も適切な受診や看護が受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、速やかに情報提供を行い、本人・家族が安心して治療できるようにしている。退院時、病院関係者と情報共有しながら、安心して帰れる環境づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	看護師・本人・家族・管理者・リーダーと各々話し合い、事業所としてできる事を考えながら、本人にとって一番いい生活が出来るように支援している。	身体状態が重い方もホームでの生活を継続できるように支援が行われており、医療面での必要な連携等も進められている状況でもある。現状については、利用者の段階に合わせた家族との話し合いを重ねながら、次の生活場所への移行支援も行われている。	協力医との連携を深めながら、ホームで可能な支援の検討が行われている。ホームでの生活を希望される方もあり、ホームの継続的な支援体制づくりの取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	内部研修で、急変や事故発生時の対応を学んで備えている。コロナ感染時のシミュレーション等も行っているが、繰り返し訓練が必要である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	内部研修で、災害時の初期対応を学び、三か月に一度、災害の場面を変えて訓練をしている。訓練内容が、職員全員に共有出来るようにしている。年に1度事業所全体で、夜間想定避難訓練を行っている。	ホームでは、3か月に1回の間隔で避難訓練を実施し、様々な状況を想定した訓練や併設事業所との合同の訓練も実施しており、職員間での連携につなげている。また、ホーム内に備蓄品の確保が行われており、非常災害時に備える取り組みも行われている。	近隣の方との交流が中断している状況が続いていることもあるため、感染症の状況をみながら、災害に関する近隣の方との協力関係につながることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	常に自分が本人だったと考え、人生の先輩として尊重し、プライバシーを損ねない対応に努めている。利用者一人一人が誇りをもって生活が出来るように、日々職員間で意識向上の声掛けをし、ケアに努めている。	基本理念には、利用者を尊重した対応を行うことも掲げられており、職員間で理念の振り返りを行いながら、利用者に対する言葉遣いや対応等の意識向上につなげている。また、職員の接遇につながる研修を実施し、職員への注意喚起の機会もつづけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	何を行うにも、まずは本人がどうしたいのかを聴き、自己決定が出来るようにしている。表すのが苦手な方も、想いを汲み取りに努め、自己決定出来る環境作りをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	規則正しい生活をする中でも、一人一人のペースを大切にしている。希望の汲み取りに努め、自由な生活の場になるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	服・髪型・髭・爪に気を配り整えている。服を選んだり、スキンケアを勧めたり、一人一人の身だしなみに気を使い、満たされた気分で過ごせるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立立案、準備・食事・片付けを、楽しめるように会話しながら行っている。季節感・行事に合った食材や彩に配慮したり、喫茶店気分を味わえるように、モーニングを実施して、楽しみとなるようにしている。	食事については、ユニット毎にメニューを考えており、利用者の好みや嗜好等にも配慮している。利用者も食事作りや片付け等、できることに参加している。また、おやつ作りや季節等に合わせた食事作りも行われており、利用者の楽しみにつなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々の食事・水分量の把握に努め、量の調整や食事形態を変えている。体調により、お粥・アイス・栄養剤等食べられる物を提供している。一人一人に合わせ、栄養摂取が出来るように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後歯磨きを行い、個々の力に合わせて支援をしている。入れ歯の管理や、訪問歯科による口腔ケアを行い、清潔保持に努めている。嚥下機能が低下しないように、嚥下体操を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	トイレで排泄が出来るように、パターンを記録し、個々に合わせ声掛けをしている。動きを観察し行きたい時を見逃さないようにし、声掛けに注意して支援している。	利用者の排泄記録を電子記録も活用しながら残しており、職員間で日常的に情報交換を行い、一人ひとりに合わせた排泄支援が行われている。布パンツでの排泄が継続できるように職員間で検討を重ねており、排泄状態の維持、改善につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	乳製品・食物繊維豊富な食材の使用や、こまめな水分摂取に心がけている。体操や散歩等運動を進め、自然排便が出来るようにしている。必要時、便秘薬服用しながら、不快な思いをしないようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	1日おきに入浴している。時間帯・温度・洗い方、体調や気分等一人一人に合わせて支援している。入浴剤・菖蒲湯やゆず湯等四季の物取り入れたり、談笑・音楽を流したりして楽しめるようにしている。	利用者が週3回の入浴ができるように支援が行われており、入浴を拒む方にも声かけを行いながら、定期的な入浴につなげている。大きめの浴槽が用意されており、ゆったりとした気分で入浴ができる他にも、季節等にも合わせた柚子湯や菖蒲湯等も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中活動量を増やしている。休息は好きな時に好きな場所で出来るようにしている。音や照明、室温に配慮し、個々に合わせ安心して眠れるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤情報・病名など薬箱に掲示し、薬の把握に努めている。変更時は、本人の変化を見逃さないように観察し、医師・看護師に相談している。服薬時、名前・日付等声出し確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	運動や家事、工作や勉強等一人一人の力を活かし、気分転換が出来るように努めている。本人・家族の話から楽しみごと等を知る事に努め、張り合いのある日々を過ごせるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍の為行けていない。散歩で季節の変化や景色を見たり、施設敷地内の畑仕事などをして、楽しめるようにしている。外出が出来る事を楽しみ、外出の話や運動を行っている。	現状、利用者の外出が困難な状況が続いているが、運営法人で感染症対策の検討が行われており、現状で可能な範囲で利用者の外出の機会がつけられている。また、利用者の意向等にも合わせた外出支援の取り組みも行われている。	職員間で現状で可能な外出の検討や取り組みが行われているが、限られた範囲でもあるため、今後の状況をみながら、利用者の外出行事が増えることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ユニット管理をしている。移動販売時、好きな物を選び、会計が出来るように支援している。精算時、共に計算しお金に触る機会を作っている。自身でも所持している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	お便りに想いを書いたり、希望時、家族の都合のいい時間を配慮しながら、自ら電話や手紙が出来るように支援している。オンライン面会も勧め、やり取りが出来るようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	清潔に心がけ、温度・湿度に気を付けている。落ち着いた雰囲気、季節感のある壁画や飾り、イベント時の写真を張ったり、場面に合わせて音楽を流し、居心地よく過ごせるように努めている。	リビングは広めの空間で採光にも優れており、利用者が閉塞感を感じないような生活環境が確保されている。また、リビングにつながる通路には、季節等に合わせた飾り付けや利用者の作品等の掲示が行われてあり、アットホームな雰囲気づくりが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	他者と会話や肩を寄せ合い寝たり、テレビをつけて見る等、その時の想いで一人一人が自由に過ごせるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの家具・布団・テレビ・洋服・家族写真などを持参している。個々の空間を大切に、家にいるように安心し、心地よく過ごせる居室づくりに努めている。	居室には、利用者や家族の意向に合わせた持ち込みが行われているが、シンプルな雰囲気の居室の方もあり、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。また、出窓部分に花を飾る等、利用者の好み等に合わせた対応も行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	館内バリアフリーになっており、手すりが多い。居室には名札、トイレ前には大きく張り紙、棚には物品の名前を書いて、自由で安全に自立した生活が過ごせるようにしている。		